

- 平成19年度 一般会計補正予算
- 一般質問
- 委員会視察研修報告
- 飯南町への想い（寄稿）

**飯南町議会** 島根県飯石郡飯南町下赤名890番地  
飯南町議会事務局 TEL:0854-76-2190 FAX:0854-76-2867

**第10号**

平成19年7月20日



### 豊作を願い捧げる「さんばいさん」

毎年5月中旬に営まれる「さんばいさん」の儀式。豊作祈願は佐見地区こそっての大切な行事です。神事の田植え唄にのって粛々と田に手植えをする光景は古来より変わりません。「さんばいさん」は異世代交流もからめて実施され、約50人の人々が参加。地域に残る数多い田植え唄や伝統農具の体験などを新世代の子供たちに楽しく優しく伝えていました。

# 銀山街道に新たな息吹

石見銀山の世界遺産登録で改めて検証されつつある銀山街道。

飯南町には江戸時代の銀山街道が残っています。

銀山街道は、幕府の直轄地であった石見銀山(大田市大森町)から尾道(広島県尾道市)まで銀を運搬するために整備された「銀の道」です。

百五十年前までは銀を運搬する大行列が通行し、その後も山陰、山陽へと行き交う人々で賑わったであろう銀山街道は、このたびの石見銀山の世界遺産登録に伴い、いま、大きく脚光を浴びようとしています。

銀山街道を訪ねる会の要旨より



下赤名の古民家

当時の道が残り、脇には江戸時代のもと思われる農家がそのまま残っている。



銀山街道

鬱蒼とした木立に囲まれた道は往時を偲ばせる。



国境の碑(赤名峠)

赤名峠には天保3(1832)年に広島で作られた国境を示す標柱が移設されており、柱には「従是南 備後國」「従是南 藝州領」「三次郡 横谷村」と読める。

## 平成19年度 一般会計補正予算



ポピー祭りより

# 1億3千628万円増額

銀山街道整備事業ならびに森林セラピー事業に係る事業費など

6月定例会は、6月12日から6月21日までの10日間の日程で開かれ、18件が提案されました。

これらは審議の結果、全議案が原案通り承認、可決されました。  
**6月定例会で可決された  
主な議案は次のとおりです。**

### 報告

飯南町一般会計及び飯南町公共下水道事業特別会計繰越明許費の報告についてなど五件

### 承認

専決処分承認を求めることについて  
「平成十八年度飯南町一般会計補正予算」など七件

### 条例制定

琴引スキー場及び琴引スキー場周辺施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例など二件

### 予算

平成十九年度飯南町一般会計補正予算など三件

### その他

飯南町過疎地域自立促進計画の変更について一件

各会計	補正予算	予算総額
一般会計	136,283千円	6,934,870千円
特別会計		
老人保健事業	11,212千円	1,000,879千円
公共下水道事業	12,529千円	322,573千円



6月定例議会

# 6月定例会 町政を問う 一般質問



## Q 不要財産の処分は現状を把握して

**若林議員**  
町有財産として現在利用していない土地や建物があります。将来必要としない物件を確認して、公募の上、売却や地区への払い下げなど処分する考えは。

## Q 登記事務は速やかに未登記解消に努力

**若林議員**  
現在、町有財産として取得している一部の土地が未登記になっています。登記事務の体制や状況を把握し、速やかに未登記解消を進めていくべきでは。

**若林達治議員**  
飯南町は、実質公債比率二三・八%と県下で三番目、長期債務比率は四番目となり、極めて厳しい状況です。予算執行に当たり、今後、短期・中期にわたり、どのようにして財政の健全化を図っていくのか。

**山崎英樹町長**  
平成十八年三月に行われた改革大綱を策定し、年度別実施計画に基づき改革に取り組んでいます。税収の伸び悩みや地方交付税の削減など、厳しい状況となり、歳入に見合った歳出構造に転換する必要があります。

また、本町は財政の根幹である地方交付税改革の影響が大きく、財政基盤の確立に向け国に対し引き続き強く要望していきます。



## Q 琴引フォレストの今後は町民の意向を参考に

**伊藤議員**  
琴引フォレストパークは、一九年度末に一億三千万円余の返済が必要ですが、返済計画は、同社の今後は、早急に座談会を行い、町民のみなさんに意向を聞く必要があります。  
また、覚書の一億九千万円の基金取り崩しによる処理の真意は。

**Q 年金問題への対応は窓口開設で**  
**伊藤好晴議員**  
社会保険庁による年金支払い記録不明問題解決のために、本町への相談窓口開設の考えと、台帳・マイクロフィルム等の過去のデータが

残っていないか調査し、解決に協力する考えは。また、昨年施行された年金の減免、納付猶予制度の周知は。

**山崎英樹町長**  
社会保険事務所の出張相談は困難とのこと、町職員による相談窓口を四ヶ所設置して対応します。

年金データの保存状況は、赤来地域は平成三年まで原紙で、以降一三年まで磁気テープ、頓原地域は平成七年から一三年まで磁気テープで保存があり、調査に協力します。減免等の制度は周知に努めます。

## Q 国保料抑制と滞納者対策は現行水準で

**伊藤議員**  
国保料引上げで負担感が高まっています。基金取り崩し、一般会計からの繰り入れ等で引き下げの努力が必要では。また、滞納者への資格者証の発行は、適切な医療が受けられない場合が発生しており、被保険者の事情を考慮した対応をすべきでは。

**山崎町長**  
本町の医療費は、年間一人当たり一般で、県平均より九万円高く、国保全体では六万円高

い状況です。基金に余裕が生じれば、引き下げを考えます。また、一八年は軽減制度を活用し、全体の六五%の世帯で軽減措置を適用し三、三〇〇万円軽減しました。健康(まめ)な飯南二一計画を実践し、病院にかからない健康づくりに努め、国保料引き下げに努力します。資格者証の発行は法的に義務付けられており、緊急時は保健の使える短期証の発行で対応しています。

**山崎町長**  
琴引フォレストパークの償還金については、平成一九年事業計画の状況では、返済が自力では不可能です。七月に四地区で座談会を開く予定で、資料を示し、町民のみなさんご意見をもとに方向付けをします。一億九千万円に対する考えはありません。

# 6月定例会 町政を問う 一般質問

**Q 減債基金の積立て目的は**  
**A 借金の償還、繰上償還の財源**

難波伸一郎議員  
琴引フォレストパークへの貸付金が返済不能となり、減債基金を充当したが、積み立て目的から外れているのでは。

**Q 例規集の閲覧を**  
**A 閲覧に向け作業中**

山崎英樹町長  
減債基金は償還の財源として積み立てており、平成一八年度末残高五億三千三〇〇万円です。今回の県への償還は、以前の琴引フォレストパークからの返済金で処理しました。

難波議員  
三月議会で実施する答弁があった、例規集のインターネットでの閲覧が実現しておりません。  
県内の実施状況は、大半が公開されています。情報の共有と協働のまちづくりのため早期実現を。



山崎町長

現在作業中であり、改正条例の整理、システムの整理、ホームページの校正など、作業が残っています。  
九月を目途に速やかに実行します。



琴引フォレストパーク

**Q 美郷町へのバス運行は**  
**A 九月以降の運行で検討中**

小野覚議員  
旧大和村へのバス運行は飯南高校の通学、病院の患者確保、商店の活性化が図られると思います。  
本町にとっての運行の意義と、具体的な問題と課題は。

山崎英樹町長  
美郷町は、高校の再編や三江線維持の問題等でバス運行の協議がで



**Q 全共後の畜産振興は**  
**A 安全・安心な農畜産物供給**

小野議員  
第八回全共開催後の振興対策として、増頭、コストの低減、省力、高齢者対策を挙げて畜産振興の施策を講じています。

しかし現実には、飼育農家、頭数とも減少しております。  
施策の成果が十分ではないと感じますが、農業全体のなかで畜産の位置付けと第九回全共後の課題は。



「僕らも牛が大好き」と話してくれた山下さんの孫（下米島）

山崎町長  
第八回全共での優等賞入賞の成績で本町の和牛振興や県の和牛改良の成果として、繁殖和牛生産の復興を期待しましたが、現実には飼育戸数、頭数とも減少が進んでいる状況です。  
第九回全共の出場には完全の対策を講じています。  
本町の農業全般については、生命地域に生産される安全・安心な畜産物を供給していくことが、農業の進む道だと考えます。

## 議会用語の ひと回メモ

議会には、いろいろな専門用語があって皆さんには馴染みのないものが多いと思います。ほんの一部ですが、本紙に掲載している用語の解説をいたします。

### 専決処分とは？

議会が議決をしなければならない条例・予算などについて、時間的に議会の開催を持ってない緊急の場合もあります。そのような時に町長が議会に替わって決断することを専決処分といいます。  
ただし、次の議会で承認を得ないといけません。  
(専決処分が無効になることはありません)

### 議決とは？

議会での意志決定のことです。議案の内容により、賛成か反対かの結果の表現が違います。  
本町の場合、予算案・条例案・意見書などについては「可決・否決」、人事案件に関しては「同意・不同意」、専決処分に関しては「承認・不承認」といいます。

### 採決とは？

議長が議案などについて、出席議員に賛成・反対の意思表示を求め、それを集計することをいいます。  
本町では、起立による採決を行っています。



### Q 町道八神千原線の改良は A 道路整備計画で

**永井 章議員**  
町道八神千原線は、八神地内より美郷町へ通じる幹線ですが、一部未改良区間があります。この路線は幅員も狭く、車の交差が困難な所もあり、冬期間の除雪作業に支障をきたしています。早期の改良計画は、

**山崎英樹町長**  
本年度、長期的な視点に立った道路整備計画の策定作業を進めています。改良整備は諸条件を考え合わせ、財源の確保を図りながら、今後の道路整備計画で必要な路線として検討します。

# 6月定例会 町政を問う 一般質問

### Q 健康な町づくりを A 予防に重点



**長島正一議員**  
高齢化が進み「安心して暮らせる町づくり」を目指すなか、国保の医療費や介護認定者の増加。また、病院会計の赤字も課題となっています。

**山崎英樹町長**  
四〇才以上の九割が生活習慣病であり、今後基本検診受診率の向上、リハビリテーションの体制強化等予防に重点を置いた施策を推進します。

**山崎町長**  
スキー場は、町の地域振興、住民の福祉に寄与する施設であるべきと考えます。議会や住民の意見を聞き方向付け、運営に

### Q スキー場のあり方は A 拠点施設として検討

**長島議員**  
運営方法に問題があり、スキー場のあり方が問われています。今後は、住民を巻き込んだ運営、グリーンシーズンの活用等に新たな方向性を求めるべきでは。また、「やまなみ」は、伊丹市の協力により、今では道の駅として「青空市ブナの里」等への相乗効果があり、琴引フォレストパークと分離して活用を図るべきでは。

**山崎町長**  
スキー場は、町の地域振興、住民の福祉に寄与する施設であるべきと考えます。議会や住民の意見を聞き方向付け、運営に

### Q 研究会の目的は A 目的は売れる米づくり

**長島議員**  
金を出せば食料が買える時代が終わろうとするとき、農地・水・環境向上対策へ全地区

**山崎町長**  
農地水環境対策は、住民のみなさまのご理解により全地区での取り組みができました。稲作の経営安定対策への取り組みは、経理の一元化に厳しい状況となっており、JAと行政の窓口の一元化を検討しています。



今年の豊作を祈願して「さんばいさん」(佐見地区)

### Q 補助金の返還は A 今後の協議を踏まえ

**櫻井秀憲議員**  
杜の風とんぼらは、五月の株主総会において八割の有償減資が決定されました。

付されていますが、事業が中止された以上は町へ全額返還すべきでは。

**山崎英樹町長**  
商業集積事業は断念されましたが、千六〇万円の補助金については、商工会の合併に伴いタウンマネージメント頓原へ譲渡されています。

今後の町づくり事業に活用したい旨の申し入れを受けており、交付時の条件を踏まえ、協議し、判断します。



頓原の町並み



**山崎町長**  
情報化を推進する検討会議において、防災無線やCATV回線を活用し通信手段を検討しました。ラジオ電波、携帯電話の難聴は情報化検討会議のなかで、難聴解消対策を研究してまいります。

### Q 災害時の情報は A 難聴解消対策を

(三月議会質問と答弁)

**伊藤議員**  
ラジオは災害時の重要な情報源になりますが、ラジオ放送の受信は、非常に悪いです。難聴を解消するのが重要であり、その対策は、



商工会支援センター

# 町の総合計画と 地区別コミュニティ計画の 取組について

**福岡県 築上郡上毛町**

飯南町では、合併した平成17年度から自治振興組織などを生かしての「地域の総合力」を発揮する仕組みづくりを目指して「飯南町地域コミュニティ活性化事業」を進めています。そこで、同じようなねらいで事業展開している福岡県上毛(こうげ)町を視察し、研修しました。

上毛町は、平成17年10月に2村で合併して発足した町で、福岡県東端で、大分県中津市と県境を接する人口8,900人の町です。中津市の中心部とは、山国川を挟んだ極めて近い位置にありますが、田園風景が広がり、また町の6割超が山林です。

上毛町では、現在総合計画の策定が進められていますが、その柱は「自分たちの村や集落を残していくためには、自分たちが責任をもってその経営にあたる」「役場に任せっぱなしではなく、頑張る住民やその人たちが暮らす集落が報われること」。そのような時代が来ているという背景から、旧村や集落などのきめ細やかな視点を大切に、身近な生活の舞台を対象とするコミュニティ計画づくりが進められています。



上毛町庁舎風景

そして、その計画づくりに、まちづくりにアイデアを出しあい決定していく「住民ワークショップ」を取り入れています。さらにこの計画は、早稲田大学研究室との協力で進められています。住民ワークショップへの参加募集をしたところ、90人の町民が応募されたとのことですが、このことから町民の「まちづくり」への関心の高さを感じました。現在まで2回のワークショップを実施され、自分たちの地区をグループで歩き、地域の可能性を改めて探し、まとめられている段階です。年度内に、残り2回のワークショップを開催して、4地区別コミュニティ計画の完成を目指して進められています。

事業の基本指針である“活動はあくまでも住民が主人公”「自分たちで考え、自分たちで調べ、自分たちで発見し、自分たちで話し合っつくる」を実践されていて、そのことが「住民自治力」をつけることに繋がるものだと感じました。しかし、コミュニティ計画の必要性については、ワークショップ参加者には理解されつつも、町民間で、あるいは地区間で理解度には温度差があることも感じました。

今後の課題は、“一過性の本づくりにならないための取り組み”として、①地域リーダーの要請と住民自治の確立。②職員の意識改革と地区担当制の創設。これらを挙げられていた。地区担当制については飯南町が先行しているが、課題としては飯南町も同様であると思います。

「今後は道州制の議論が大きくなるであろう。10年後に、仮に町が無くなっても、その時に集落も無くなることのないよう、自治力をつけなければいけない。そのためにも、このコミュニティ計画事業を完結させなければならない。」の言葉に表れているように、執行部、議会ともに、この事業推進に不退転の決意で取り組まれていることを感じました。

観光資源の発掘、

## 渓谷に日本一の大吊橋 **大分県 玖珠郡 九重町**

九重町は、観光資源である(豊かな緑・高原の温泉・地熱)を活かし、滞在型・通年型の観光リゾートづくりのため、3つの柱(大吊橋・スキー場・リゾート施設)を観光の再生・創造とし、総工費約20億円でこの橋が建設されました。長さ390m・高さ173m・橋の標高777mの人道専用吊橋としては日本一で、橋から見る雄滝と雌滝の景観は壮大。

大吊橋は九重町が管理運営し、平成18年10月から本年7月までに約157万人の来客(料金500円)があったそうです。飯南町でも埋もれた観光資源を活かし、観光客誘致に努力すべきだと強く感じました。



# 委員会視察研修報告 **葉っぱ**を売って個人で年1,000万円

平成19年7月2日～4日にわたり実施

**徳島県 上勝町** 「彩」事業とごみ処理事業



「彩」事業で販売している葉っぱ

徳島県は本当に山が深い。平地が極端に少なく、山肌にへばりつくように民家が点在しています。上勝町(かみかつちょう)は85.4%が山林で、標高600メートルほどの地域に、民家とわずかな農地が点在しています。年間降水量は3000ミリに迫り、深くえぐられた谷には、山奥に似つかわしくない広い川があり、驚くほど透明な水の流れを作っていました。

高齢化率は47%以上もありながら、一人当たりの医療費は年間26万円で、徳島県内の最高位の自治体との差は、なんと20万円。この元気はどこで作られているのでしょうか。

「彩」事業はマスメディアに注目され、全国に知れ渡っています。平均年齢68歳の農家が、葉っぱを売って年1000万円以上も稼ぐ人がいます。パソコンを駆使して、市況データや自分たちの売上データを参考に、生産計画や経営戦略を立て、時には京都や大阪の高級料亭で食事をとりながら、自分たちの商品がどのように使われているのか研究したり、このバイタリティーこそが健康の源とのことでした。80歳を超えたおばあちゃんが、一家の稼ぎ頭で家族を支えているのですから、自信がみなぎり生き生きするのもうなずけます。今では、一度はまちを出て行った若者たちが、おばあちゃんと仕事をするために帰ってきたり、自分の出番を求めてIターンする若者が増えていきます。

このまちにはもうひとつ注目されていることがあります。それは「ゼロ・ウェイスト」(無駄をなくす)ということです。ゴミ収集車を使わず、町内に1箇所だけある「ごみステーション」に自分でゴミを持ち込み、35種に分別し、80%をリサイクルします。生ごみは各家庭で堆肥化されて有機肥料として使われます。古着はハンガーに掛けられ、気に入った人が無償で持ち帰ることができます。これによってこの地域の環境は美しく維持され、「彩」の商品イメージをよりよいものにしています。

町内1ヶ所のごみステーション



## 「ゆず」の販売戦略で年商33億円 **高知県 馬路村**

この馬路村(うまじむら)は96%が山林、そのうち70%が国有林です。わずかな農地にはゆずが植えられ、唯一の農産物でした。林業が衰退し、残ったのは「ゆず」だけ。だから20年こだわり続け、年商33億円を越す今の地位を築きました。徹底した有機無農薬農法で品質と安全性を高め、消費者に信頼される商品を作り、商品を作るのではなく、田舎そのもの売ることに努めました。

DMや広告は秀逸で、広告代理店は何日も泊り込み、村人と生活をともにし、村人を主人公にして作り上げていきます。テレビCMには地元の小学生や近所のおじさんたちが普通に登場しています。そして、売れた理由、売れなかった理由を明確にして、自分たちのイメージで、自分たちの手で商品を作り出していくことに努め、時間がどんなにかかっても消費者と強い絆を作り上げています。

合併によって全国から村が消えて行くなか、「きっと村が売り物になるときがくる」という言葉が印象に残りました。

どちらも人口2000人足らずの山ばかりの小さな町と村ですが、自分たちの宝物を10年、20年と大切に育て上げ、こだわりを持ち続け、全国ナンバーワンの地位に着きました。

そのサクセスストーリーは聞くものを感動させずにはおきませんでした。大きな元気を頂き、心から感謝しました。



JAのゆず通販オペレーションセンターで



同センター内の広告企画室

寄稿

# 飯南町への想い



## 飯南回帰現象



上來島 福間 厚志

「お父さくん、いい物見つけたよ。これ何？」子供達が残雪の裏山に入り、両手にいつぱい持って来た物はなんと、ほかほかのウサギの糞でした。二年前の三月末、妻と子供達の五人で始めて来た日の出来事です。

飯南高校を卒業して広島や大阪で暮らし、田舎生活ブランクの私にとつて、いきなりの子供の行動に驚きました。

大阪では郊外暮らしで、

「お父さくん、いい物見つけたよ。これ何？」子供達が残雪の裏山に入り、両手にいつぱい持って来た物はなんと、ほかほかのウサギの糞でした。二年前の三月末、妻と子供達の五人で始めて来た日の出来事です。

飯南高校を卒業して広島や大阪で暮らし、田舎生活ブランクの私にとつて、いきなりの子供の行動に驚きました。

大阪では郊外暮らしで、

「お父さくん、いい物見つけたよ。これ何？」子供達が残雪の裏山に入り、両手にいつぱい持って来た物はなんと、ほかほかのウサギの糞でした。二年前の三月末、妻と子供達の五人で始めて来た日の出来事です。

飯南高校を卒業して広島や大阪で暮らし、田舎生活ブランクの私にとつて、いきなりの子供の行動に驚きました。

大阪では郊外暮らしで、

# 那須議長が 島根県議長会 会長に就任

飯南町議会の那須穂土輝議長が、六月六日開催の島根県町村議長会臨時総会で会長に選任されました。任期は平成二十一年六月二十日までの二年間です。同議長会の役員は次のとおりです。



会長 那須 穂土輝 (飯南町)

- 副会長 野津 貞夫 (東出雲町)
- 同 後山 幸次 (津和野町)
- 同 亀谷 潔 (海士町)
- 監事 岡田 征記 (斐川町)
- 同 瀬上 康浩 (川本町)



議会報の編集作業

## 編集後記

今年の冬は降雪も少なく、水不足が心配されていましたが、水稲の作付けも終わり、梅雨の時期を迎えています。

本年度から新たな「農地・水・環境保全向上対策事業」と「品目横断経営安定対策事業」が、全国的にスタートしています。

飯南町でも、これらの事業を積極的に取り入れ、中山間地域における農業振興が期待されています。

こうしたなか、六月定例会が開催され、農業政策、琴引フオレストパークの運営など当面する諸問題について、七名の議員が一般質問に立ち町長の答弁を求めました。

今回で議会広報編集委員は七月末日をもって二年間の任期を終えます、多くの町民の方々よりご意見、ご要望を頂きながら、よりよい議会広報に努めてまいりました。

昨年四月発行した議会広報「飯南」が全国コンクールで奨励賞を受賞することも出来ました。ここに厚く御礼を申し上げます。

議会広報編集委員会